



イスmailia県のエルヘダーヤ保育園。積み上げ式の机を使いながらコーナー保育にチャレンジしてみました

コーナー保育と保育室の環境アレンジ

コーナー保育

プロジェクトでは、子どもたちの主体的な遊びを大事にしたいという考えから、日本の保育園や幼稚園で実践されているコーナー保育をプロジェクト対象園の先生方に紹介しています。

コーナー保育では、保育者が室内にごっこ遊びや積み木、製作、お絵描きといった遊びのコーナーをつくり、子どもたちは自分の興味や関心をもとに自ら遊びを選択し、環境に能動的にかかわり自分の好きな遊びを楽しみます。



おままごとコーナーで遊んでいる子どもたち

保育者がクラスの子どもたち全員を相手にしながら活動(遊び)を主導し、子どもたちがその活動(遊び)を通じて様々なことを経験・学んでいくことももちろん大切ですが、それと同じくらいに、子どもたちが取り組みたい遊びを主体的に選択し、楽しむことも大切だと考えています。

しかしながら、プロジェクト対象園(総数50園)のいくつかの園からは、「コーナー保育を実践したいけれど保育室内にある机は積み上げたりできる仕様ではないため、保育室内に十分なスペースを確保できないのです」という声を聞くことがありました。



大勢の子どもが活動をしている場面

積み上げ式の机の活用

日本の保育園や幼稚園に目を向けてみると、保育室の室内環境を子どもの活動や遊びに合わせて柔軟にアレンジするため、積み上げ式の机を使用し、保育室の環境を変えている園があります。

子どもたち全員に机に向かって落ち着いて取り組んで欲しい活動、例えば、何かを製作したり粘土を使って遊ぶときには、子どもたち全員が机に向かって落ち着いて取り組めるようにする。それぞれの遊び毎にコーナーをつくりたいときには机を積み上げて保育室内にスペースをつくり、

コーナーを設置するというやり方です。



積み上げ式の机を一つひとつ使えるようにし、子どもたちに落ち着いた環境の中、絵本の読み聞かせをしている場面

コーナー保育での保育者の役割

毎日子どもたちと接し、子どもたちの日ごろの様子がよく分かっている保育者は、子どもたちの良き理解者です。それぞれのコーナーの遊びも、子どもたちの興味や関心に合わせて柔軟につくり出すことができます。例えば、園内検診があった後にはおままごとコーナーをお医者さんごっこができるようにしてみる、または、クラス全員で絵を描く活動をした後に何人かの子どもたちがまだまだ絵を描き足りない様子があったら、その後のコーナー保育の時間にはお絵描きコーナーをつくり出すことができます。

コーナー保育の際、保育者には子どもの遊びを支援・展開するようなかわり方が求められますが、子どもと一緒に遊びを楽しむことも大事にしていましょ。



早稲田大学人間科学学術院 教授
前橋 明 先生

エジプトでもご家庭や保育園で親子ふれあい体操を楽しんでもらえると嬉しく思います。
子どもたちと楽しい時間を過ごしてください。



① 高い高い

子どもの大好きな遊び。誰かごとく楽しく感じ、また、やりだしたら気が持たずを起こすもまま。



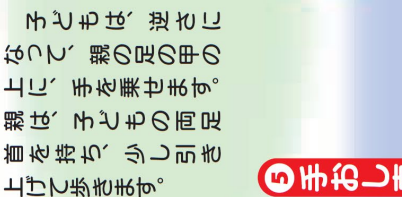
② 足踏みまわり

親は両足を開いて座わり、子どもはその足の上を両足踏み切りで跳び越えて、親の背をひと回りします。できれば、片足跳びや横跳び、後ろ跳びにも挑戦します。



③ 逆ぞりロボット

子どもは、逆ぞりなごて、親の足の甲の上に、手を乗せます。親は、子どもの両足首を持ち、少し引き上げて歩きます。



④ 手おし車

子どもにこころ、腰筋や背筋、腕力を使うタテマツクな運動です。前進だけでなく、後すなりもします。持っころる足の重さを低くすると、少し歩かやちくなりませ。



⑤ ロボット歩き

親の足の甲に、子どもが乗り、親子で手を握っころりこころに動きます。前方や横方向、後ろ方向へ移動します。親が大まかに動くと、子どもは大喜び。両足を広げて、また歩かだ一



⑥ スコーカーダンス

子どもを抱っころりして腰と背中をまごええ、脇で子どもの足をしっかりと挟み、クルクル回ります。上下させたり、回る方向も変えごませ。



⑦ スーパーマン

親は、子どもの胸ごもごもに手を抱っころり、子どもを持ち上げます。移動しながら、子どもを上下させるご、ごごごごごごごご。



かんがえる子
かんばる子
やさしい子
ふさふさの子
未来づくり

親子ふれあい体操

食べて、動いて、よく寝よう!

早稲田大学人間科学学術院 教授/医学博士 前橋 明
〒359-1192 所沢市三ヶ島2-579-15 TEL&FAX 04-2947-6902

体操で育つもの
巧緻性や平衡性、敏捷性などの調整力、筋力、空間認知能力、回転感覚や逆さ感覚、支持感覚の向上、親(保護者)と子のコミュニケーションづくりと情緒の開放、感動体験

部屋の中で行うときは、窓を開けて風通しをよくして行いましょう。体操が終わったら、手洗いやうがいをして、汗をしっかりふくようにしましょう。体操では、親子ふれあい体操を紹介してみます。

これからプロジェクトを通じ、親子ふれあい体操のイベントを実施していきます。
一緒に楽しい時間を過ごしましょう！



就学前の教育と保育の質向上プロジェクト
長谷川 専門家

⑧ 跳び越すべし

子どもは、座っている親の足の
上を跳び越した後、今度は浮かべ
た体(しり)の下をくぐり抜けます。



⑨ 両足くぐり

親は両足をそろえて
V字になります。子
どもは、親の両足の下
をくぐり抜けます。

⑩ 丸木だおし

「力試しをし
てみよう」と誘
いかけます。親
は仰向けに寝て、
足を垂直に立て、
両手は床面につ
けて、足が倒れ
ないように支え
ます。子どもは、
その丸木(親の
両足)を倒すよ
うにします。



⑪ グーパー跳び

- ①子どもは、親の足をまたいで立ちます。
- ②親は両足を開き、子どもは跳んで両足を閉じます。
- ③この動作を、声をかけ合いながら繰り返します。2人の呼吸とリズムの取り方がポイント。
- ④上達したら、子どもが親に背を向けて行ってみます。



⑫ おしりたたき

親は子どもと手をつなぎ、お互いに、もつ一方の手で相手のお尻をたたきます。自分のお尻もたたかれないように逃げましょう。

一本のタオルの両端をそれぞれ持つようにして行ってみましょう。
ゆとりがとれるよ！



体操は いいことがたくさん!

- お金をかけずに、体づくりができる (体力向上)
- 道具も必要なく、体だけをつかって運動ができる
- 子どもが親をひとり占めできる (心の居場所づくり)
- 親が子どもの成長を確認できる
- ふれ合うことで親子のコミュニケーションづくりに役立ち、言葉の発達につながる (社会性づくり)
- 遊び方を工夫することで、知的面の成長にもつながる (学力向上)

夜の運動はNG
夜に体を動かさず寝ると、子どもは血循環がよくなり、かえって眠れなくなってしまう。仕事から帰ってきたお父さん、夜の運動あそびはぐっすり寝て、体を休めたあそびは、朝起きてから行うのが理想的です。

早稲田大学人間科学術院 前橋 明 研究室
(04-2947-6902)

⑬ 飛行機

子どもは親の足をおなかに当てる。前方に倒れます。
親はタイミングを合わせて、子どもを持ち上げます。慣れていないときは、子どもの両手をもつて行いましょう。



踏まれないように
逃げる、逃げる!

⑭ シャンパン足踏み

①向かい合って手をつなぎます。「シャンパン、ポン」で、同時に足を使ってシャンパンをします。

②親が勝ったら、手をつないだまま、子どもの足を踏みにいいます。子どもが勝ったら、大人の足を踏みます。

③子どもは、足を踏まれないように、ヒョン、ヒョン跳びはねながら逃げます。

足シャンパン



足を前後に開いて(チヨキ)

プロジェクト対象の50の保育園の中には、30年にわたり保育園で働いている先生がいます。経験豊かな先生方にインタビューをしてみました。

ホッラス エル・アキーダ保育園のエルハーム先生と子どもたち

子どもとかかわることのできる仕事の魅力

○保育者として30年以上、働き続けることができたことに何か理由がありますか？

○日ごろ子どもたちとどのような遊びを楽しんでいますか？

○(ご自身の長い保育者としての経験をもとに)他の先生方に何を伝えたいですか？

レアヤート エル ターレブ保育園より
(カフル エル シェイク)

サルワ先生 (4,5歳クラス)

○子どもとかかわることができるこの仕事が好きです。子どもと離れるのが嫌で、休暇を取るのもためらってしまうことがあります。

○手づくりの玩具や人形をつくり、子どもたちが遊ぶ環境を整えています。また、週に一度ある粘土の日には小麦粉粘土を用意します。

○子どもたちが友達とかかわりながら、楽しく自由に遊べるよう、保育をしています。



子どもたちと遊ぶサルワ先生

マナル先生 (3歳半～4歳半クラス)

○子どもが大好きで、子どもたちとかかわりながら子どもとの接し方を身に付けてきました。

○一緒に園庭で遊んだり、運動あそび、お絵描き、粘土、折り紙をしています。

○保育者はじっくりと子どもたちの気持ちの変化や、熱意(やる気)に向き合っていくことが大切です。保育者は保育園では子どもたちのお母さん(お父さん)にもなるので、子どもたちが何でも話してくれような関係を築くことが大事になります。

アティアート先生(2,3歳クラス)

○(働き始めた当初は)ただ働いただけでしたが、子どもたちと時間を共有する中で、彼ら彼女らへの愛情が育まれていったのが(保育者として長く働き続けることができた理由として)大きいと思います。

また、子どもたちが同年代や異年齢の友達との協力の仕方を学べるよう、保育園でいろいろな遊びを提供する方法を身につけてきました。

(保育園で子どもを保育する上で)家庭と協力関係を築くことが大切になり、送り迎え時や電話連絡をする際に育児に関し共通理解をもてるよう努めています。

○歌あそびや運動あそび、ブロック、コーナー保育などを行っています。

○保育者は子どもたちとじっくりとかかわることが大切です。そして、子どもの人格形成や精神的、身体的発達を適切に支援すべく、様々な活動を子どもたちが経験できるようにして欲しいと思います。さらに、保育者は自分自身が抱える問題は家に残し、保育園に入るときにはそれらを忘れ仕事に専念することがとても大切です。

ホッラス エル アキーダ保育園
(カリオベイヤ)

エルハーム先生(乳児・幼児担当)

○子どもにかかわることのできるこの仕事がとても好きで、いつも子どもたちと楽しく過ごしています。また、エジプト社会の未来を担う子供たちを保育・教育しているというやりがい、30年以上保育者を続けることができた理由です。

○人形劇を通じ、子どもたちに考える力を楽しく分かりやすく伝えていきます。

○子どもたち一人ひとりがそれぞれに自分自身の興味や関心を持ち、とても活動的であるため、一人ひとりの子どものことをきちんと理解することがとても大切です。そして、子どもたちが理解できるよう、子どもたちの目線に立ちながら働きかけ、また、笑顔を常に絶やさないとともに大切だと思います。子どもたちにとっては、保育者は2人目のお母さん(お父さん)になることを自覚し、子どもにかかわっていきましょう。